

## 発掘成果をふりかえって 2020

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



1 京都新城跡 上京区京都御苑 (京都仙洞御所内)

京都新城は豊臣秀吉が最晩年に築城した城郭であるが、これまで実態は不明であった。調査では江戸時代前期の仙洞御所造成土の下層で南北方向の石垣が見つかった。石垣は大きな石材を4段以上積んでおり、京都新城石垣の一部と推定できる。堀の埋土からは五七桐文や菊花文などの金箔瓦が出土した。



発掘調査の位置

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で現地説明会を開催することができませんでした。しかし、着々と発掘調査を進めることにより、京都の歴史を解き明かす数々の大きな成果を得ることができています。



2 平安京右京三条一坊六町跡 (藤原良相邸) 中京区西ノ京小倉町

調査地は平安時代前期の貴族、右大臣藤原良相の邸宅跡で今回が11回目の調査となる。調査では邸宅内西部の園池が東西約43m、南北27m以上の規模であることや、曲縁を描く汀に洲浜を備えた優美な姿が明らかとなった。



3 史跡賀茂別雷神社（上賀茂神社）境内 北区上賀茂本山

防災設備を設置するための細長い調査区で、鎌倉時代から現代までの境内の通路跡や整地層の重なりが判明した。写真奥の建物は重要文化財の舞殿と橋殿。



4 史跡西寺跡 南区唐橋西寺町

講堂跡南東部の調査で、基壇・礎石抜取穴・須弥壇が見つかり、東寺の講堂とは設計・規模が異なることが判明した。本調査は京都市文化財保護課による範囲確認調査である。



5 平安京左京西四条坊十二町・富小路跡 中京区船場町通四条上る側町

溝に挟まれ小石を敷き詰めた中央部が富小路路面である。平安時代から江戸時代初頭まで同じ位置で路面と側溝が維持・整備された状況が明らかとなった。



6 室町殿跡・上京遺跡 上京区御所八幡町

8代将軍足利義政が改修した室町殿の庭園の一部である。最大で10トンもある巨大な石材を組み合わせて積み上げ、蔵の石組を構築していた。溝水施設がないことから枯滝と考えられる。



7 富ノ森城跡 伏見区横大路六反畑

富ノ森城は巨椋池北岸の微高地に立地する中世の城館である。鎌倉時代後半から室町時代の建物・区画溝・墓などが見つかった。写真はドローンで撮影したもので奥に京都競馬場が見える。



8 音羽・五条坂窯跡（遣仙窯） 東山区五条橋東4丁目

遣仙窯は昭和43年まで操業していた京焼の登り窯である。調査では2回の大改修による3段階の構造の変遷が明らかとなった。また、構造材の耐火煉瓦や窯道具の棚板、サヤ鉢などを採集した。